

【取材案内】

災害時に必要とされる「レジリエンス」をいかに向上させるか？

ぼうさいこくたい 2024「レジリエントライフプロジェクト」トークセッション

- 開催日時 10月19日（土）12:30～14:00 ●開催会場 熊本城ホール 3F 会議室 C1
- オンライン配信 URL 掲載リンク <https://bosai-kokutai.jp/2024/s27/>

I-レジリエンス株式会社（以下I-レジリエンス）、タイガー魔法瓶株式会社、日本製紙株式会社、日本製紙クレシア株式会社、株式会社博報堂、株式会社三菱総合研究所、読売新聞東京本社、LINE ヤフー株式会社（五十音順）など17法人で構成する「レジリエントライフプロジェクト」は、2024年10月19日（土）に熊本市で開催される国内最大級の防災イベント、ぼうさいこくたい 2024にてトークセッションを行います。

能登半島地震の発生や南海トラフ地震臨時情報の発表など、災害リスクが指摘されている日本において注目されているキーワードの1つが、困難をしなやかに乗り越える力＝レジリエンスです。レジリエントライフプロジェクトは、ぼうさいこくたい 2024において「どうすれば私たちのレジリエンスは向上するのか？」をテーマに90分のトークセッションを開催。プロジェクトの取組や展望を参画企業の代表者9名より発表します。取材希望の方は10月18日19時までに運営事務局までお問い合わせください。

<本件に関する報道関係者からのご取材お申込み・お問合せ先>

I-レジリエンス株式会社 経営企画部（広報担当）：村田 岳彦 【Email】 rlp@i-resilience.co.jp

「レジリエントライフプロジェクト」によるトークセッション

●テーマ

「どうすれば私たちのレジリエンスは向上するのか？」

- 開催日時 10月19日（土）12:30～14:00
- 開催会場 熊本城ホール 3F 会議室 C1
- オンライン配信 URL 掲載リンク <https://bosai-kokutai.jp/2024/s27/>
- プログラム

- 1 レジリエントライフプロジェクトについて
- 2 自治体、企業、生活者のレジリエンス力を測定する「レジリエントライフ評価尺度」
- 3 楽しみながら参加者のレジリエンスを向上させる「令和サバイバー養成キャンプの実施」
- 4 レジリエントライフを広く浸透させる「レジリエントライフとメディアの役割」
- 5 レジリエントライフの定着に向けて

※プログラムの内容は変更の可能性があります

●登壇者(登壇予定順)

・林 春男

京都大学 名誉教授 / I-レジリエンス株式会社 顧問
国立研究開発法人防災科学技術研究所 前理事長

・古市 佐絵子

株式会社三菱総合研究所 主任研究員

・吉田 啓一

株式会社博報堂 投資型ビジネス推進部 部長

・村田 勝則

タイガー魔法瓶株式会社 「魔法のかまどごはん」プロジェクトリーダー

・龍田 博之

日本製紙グループ/日本紙通商株式会社 経営管理本部 経営企画部 部長代理

・山下 梓

株式会社博報堂 イノベーションプランナー

・針原 陽子

読売新聞東京本社 「防災ニッポン」編集長

・安田 健志

LINE ヤフー株式会社 サステナビリティ推進統括本部 CSR 本部 災害支援推進部 部長

・高柳 秀平

株式会社博報堂 ビジネスプロデューサー

ぼうさいこくたい 2024 概要

●名称 ぼうさいこくたい 2024 (第9回防災推進国民大会)

●テーマ 復興への希望を、熊本から全国へ ~伝えるばい熊本! がんばるばい日本! ~

●主催 防災推進国民大会 2024 実行委員会 (内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議)

●協力 熊本県、熊本市

●開催日時 2024年10月19日(土) 10:30~18:00 10月20日(日) 10:30~15:30

●開催会場 熊本城ホール 熊本市国際交流会館 花畑広場

●対象者 防災に関心のある方、学びたい方

●入場料 無料

●参加者数 現地来場者数約12,000人、オンライン視聴数約11,000回以上を想定

●ウェブサイト <https://bosai-kokutai.jp/2024/>

1.レジリエントライフプロジェクトとは

本プロジェクトは、自然災害をはじめ、社会、そして個人に起因するリスクまで、あらゆるリスクが生み出す困難を乗り越えるためのレジリエンス（適応力、回復力、教訓を得て成長・予防のサイクルに繋げる力）を高め、より豊かな生活の実現を目指す取り組みです。

I-レジリエンスが主体となり、企業と研究機関との共創型プロジェクトとして、今後、①各種メディアでの継続的な情報発信、②地方自治体や企業との共助型コミュニティの推進、③商品・サービスの開発と認証、④レジリエントライフに関わる研究開発などのアクションを実施していきます。



2.プロジェクトの背景：レジリエンスを高める必要性

死者・行方不明者が約10万5000人に及ぶなど、甚大な被害をもたらした関東大震災から2023年9月1日で100年が経ちます。今後、南海トラフ地震や首都直下地震の発生も予測される中、近年は気候変動を背景に風水害、雪氷災害、土砂災害なども頻発化・激甚化・広域化する傾向にあり、被災や避難など生活者が直面する困難はさらに増えると予想されます。実際に日本は世界の0.25%の土地面積にもかかわらず、全世界の自然災害被害総額の16%が発生している自然災害大国^{※注1}です。それにもかかわらず、例えば、備えとして「食料や水の備蓄」に取り組む人が40.8%、「家具等の固定」が35.9%など、個人でできる対策は進んでいません。^{※注2}

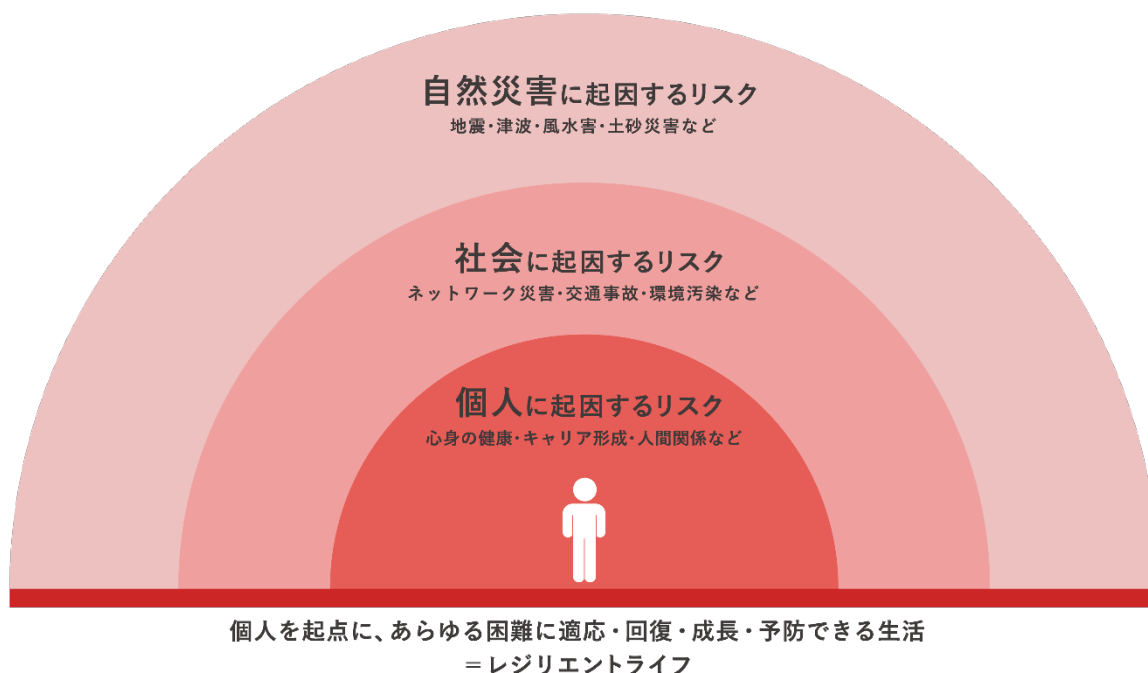
一方で、世界情勢の変化やテクノロジーの急速な進展により、社会そして生活環境は大きく変化しています。急激な変化の中で、ネットワーク災害や環境汚染などの社会に起因するリスクや、心身の健康やキャリア形成などに関する個人に起因するリスクが生み出す困難も、日常的に多く存在しています。それに加え、人口減少や高齢化の進展、食料自給率低下なども進行し、社会や生活環境が大きく変容していく日本において、豊かな生活を実現していくためには、あらゆるリスクが生み出す困難を乗り越えるためのレジリエンスを高めることが急務となっています。

※注1（出典）内閣府 HP ※注2（出典）令和5年版防災白書

3.レジリエントライフとは

自然災害のリスクをはじめ、社会に起因するリスク、そして個人に起因するリスクに至るまで、あらゆるリスクが生み出す困難を乗り越えるための「レジリエンス」を高め、より豊かな生活の実現を目指す、新しいライフスタイルです。

それぞれ起因するリスクは違っていても、個人を起点にあらゆる困難を乗り越えるためのレジリエンスを日常生活から高めることは、個人の意識向上による自助と自治体・企業連携による共助の力を高め、結果として自然災害に対する対応力の底上げにもつながると考えています。



4.プロジェクトステートメント

どんなリスクも乗り越え、もっと豊かになる100年へ。

この国は、世界有数の災害大国。そう、私たちは言われてきた。
100年前に10万人以上の死者・行方不明者を出した関東大震災をはじめ、
以降も全国各地で地震・台風・洪水などの大きな自然災害、その後の二次災害に見舞われてきたから。
世界のたった0.25%の土地面積しかないのに、全世界の自然災害被害総額の16%が集中しているから。
数十年以内に「南海トラフ」「首都直下」という2つの巨大地震発生の可能性が高まっているから。

にもかかわらず、防災への意識は高まっていない。備えだって十分とは言えない。
それは、その災害がいつくるかわからないから。
地震も津波も台風も洪水も怖いけれど、人生のリスクはそれだけではないから。

だから、はじめませんか？
自然災害だけでなく、交通事故や健康被害など、
人生のあらゆるリスクに備えながら、今日を豊かにする新しいライフスタイル。
将来の困難にあらかじめ備え、適応しながら、創意工夫を持って回復し、
成長への新たな一歩を踏み出す準備ができていく毎日。
いま、世界が注目するキーワード「レジリエンス」を体現する、しなやかなくらし。

幸いにして、私たちには多くの痛みを伴った経験からの学び、データやそこから生まれた技術がある。
それはもっとポジティブに捉え、体系化し、日々の生活に役立てられる。
将来の不安やリスクをきちんと見つめながらも、今日を豊かにすることができる。
そこからはじまる新しいくらしやビジネスが、きっとある。



RESILIENT LIFE PROJECT

レジリエントライフ プロジェクト、はじまる。

※(出典)内閣府HP2023年時点

5.特設サイト

<https://resilient-life-project.i-resilience.co.jp/>

6.運営事務局（本件に関するお問い合わせ先）

I-レジリエンス株式会社

レジリエントライフプロジェクト事務局

メールアドレス：rlp@i-resilience.co.jp